

第7章 施策の方向

1. 栄養・食生活

■スローガン

うす味で、食のリズムとバランスを整えて、未来の健康に約束しよう

■めざす姿

① 朝食摂取と栄養バランスの整った食習慣の形成

生涯を通じた健康づくりに向け、子どもの頃から学齢期や青年期も途切れることなく、朝食摂取や、「主食・主菜・副菜」の摂取、減塩等、栄養バランスの整った食事を習慣化します。また、健診の機会ととらえ、汁物塩分測定や体組成測定、ベジチェック、尿中ナトリウム比（P111）測定等を活用し、食生活改善をサポートします。

② 適正体重の正しい理解と若年女性のやせ対策

生活習慣病予防やフレイル予防のため、学齢期から高齢期まで適正体重の正しい知識の獲得と維持が望まれます。また、ライフコースアプローチの観点から、妊娠期の適正な体重維持をはじめとした若い女性のやせの対策に取り組みます。

③ 食を通じたコミュニケーションを図る

家庭や地域を含めた共食の場で、食を通じたコミュニケーションの機会を設けます。

④ 食育への関心とヘルスリテラシーの向上

SNS等も活用し、地産地消・食品ロス・次世代への食文化継承等も含んだ食育への関心を高めます。また、中食や外食の活用時も栄養バランスが取れるよう栄養成分表示等の健康情報を発信し、健康メニューを提供する協力店の周知等、ヘルスリテラシーの向上をめざします。

※ヘルスリテラシーとは、健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力であり、それによって日常生活におけるヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーションについて判断したり意思決定したりして、生涯を通じて生活の質を維持・向上させることができる能力。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
朝食をほとんど毎日食べる者の割合	小6	86.4%	100.0%	大阪府目標 朝食欠食割合 7～14歳 0% 20～30歳 15%以下
	中2	76.8%	100.0%	
	4か月児 健診保護者	65.9%	85.0%以上	
	20歳代	58.0%	85.0%以上	
	30歳代	83.2%	85.0%以上	
【新】主食・主菜・副菜を3つ そろえた食事を1日2回以上 ほぼ毎日食べる者の割合	小6・中2	67.8%	増やす	大阪府目標 60%以上
	20歳以上	59.6%	60.0%以上	
【新】野菜を食べない者の 割合（1皿分以下/日）	20歳以上・朝	72.8%	65.0%	町独自 1割減少
	20歳以上・昼	53.8%	48.0%	
【新】果物を食べない者の 割合（1つ分未満/日）	20歳以上	51.2%	45.0%	町独自 1割減少
【新】減塩に取り組んでいる 者の割合	20歳以上	43.6%	48.0%	町独自 1割増加
【新】尿中ナトリウム比が4 未満である者の割合	集団特定健診受診者 のうち協力者	80.7%	90.0%	町独自 1割増加
家族と一緒に食事をする 者の割合（朝食ひとり）	小6	15.1%	12.0%	町独自・前回目標 小6：12% 中2：35%
	中2	39.4%	35.0%	
食育に関心がある（大切と 思う）者の割合	小6・中2	82.8%	増やす	大阪府目標 75%以上
	20歳以上	68.0%	75.0%以上	
熊取町の特産物を利用し た食事を食べる者の割合	20歳以上	79.0%	90.0%	町独自・前回目標 90%
3つの食品群を理解して いる者の割合	小6・中2	81.4%	90.0%	町独自・前回目標 90% 町独自 1割増加
【新】栄養成分表示を参考 にする者の割合	20歳以上	31.6%	35.0%	
食品ロス問題を知ってい る者の割合	20歳以上	94.0%	増やす	町独自・前回目標 90%
【新】適正体重を維持して いる者の割合	中2女性	79.6%	増やす	大阪府目標 大阪府民 70%以上
	30歳女性	71.2%	増やす	
	40歳以上	69.5%	70.0%以上	
【新】肥満傾向児の割合	小4男性	11.9%	10.75%	大阪府目標 男性10歳10.75% 女性10歳10.11%
	小4女性	6.8%	減らす	

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- 子どもの頃から朝食を食べ、うす味でバランスを整えた食事を習慣にします。
- 家族や友人、地域の人等、誰かと一緒にご飯を食べる機会をもつようにします。
- 太りすぎたりやせすぎたりしないよう、適正な体重の維持を心がけます
- 熊取町の郷土料理や特産物を知って、日頃の食事に取り入れます。
- 食に関心を持ち、健康情報を積極的に得て、生活の中で活かします。

《地域の元気（地域でできること）》

団体名	記述内容
町内大学	・学生と一緒に健康づくりや健診受診の啓発、住民向けの健康教育等。 ・学内コンビニ、学生食堂や講座を活用し、食育の掲示や栄養の話の周知・啓発。 ・ホームページまたはSNS等を活用した栄養・食育情報の発信。
熊取町社会福祉協議会	・個人の日常生活の状況により、訪問や来所の折に、食事、健康、金銭管理等について気をつける。
熊取町食生活改善推進協議会	・各種、各年齢に応じた料理教室の実施。 ・町民への減塩指導、野菜摂取（1日350g）の周知啓発。 ・高齢者の低栄養予防、働き世代の生活習慣病防止活動、子どもの食生活バランス教育。
タピオステーション	・体操後、定期的にカフェなど共食の機会を設け、個食や孤食を防ぎ、地域の憩いの場を作る。 ・自分たちの畑で採れた旬の食物や地場産のものを利用した手作りおやつなどを提供する。
子育て支援関係NPO団体	・会員に向けて「子どもの栄養と食生活」の項目で養成講座を行う。講座の項目は様々な分野にわたっており、協力会員向けだが、地域からの一般参加も受け入れている。 ・（子どもに対して）年2回の歯と食育の講座を開催。 ・（大人に対して）子どもと同様に年2回の歯と食育の講座開催と、離乳食の相談等。 ・保護者から栄養、食生活について質問があった際には、町の講座等を情報提供。

団体名	記述内容
町内民間保育園・ 認定こども園・幼稚園	・ 4、5歳児向けに毎月食育活動を実施。 ・ 栄養士や調理師による食育活動を実施。 ・ 農園での様々な野菜の育成や、毎月のクッキングでみんなで作る楽しさと食べる楽しさの体験機会を通じた食育活動を実施。 ・ 保護者に対して、毎月「食育だより」等を通じて、保育園での食育の様子や食のアドバイス、行事食や栄養素、食事の大切さや旬の食材についても伝えている。 ・ 全園児に自園で作った旬の素材を取り入れた栄養のある給食を提供。
大阪府 泉佐野保健所	・ 若年期からの健康的な食生活の実践の促進に向け、大学生や働く世代を対象に、SNSを通じた簡単に作れて野菜も食べられるようなレシピ等の情報の提供。 ・ 外食や中食、給食施設における取組として、V.O.S.（野菜・油・食塩の量に配慮したメニュー）の提供を飲食店や給食施設に働きかけることや、提供店の周知・啓発。今後は、町広報等への情報提供や連携も検討。 ・ 食事の準備等が困難な地域高齢者等への栄養・食生活支援として、泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町の地域高齢者等に配達する配食事業者の宅配サービスの情報を収集し、掲載した「大阪府泉佐野保健所管内地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業者一覧表」を作成、泉佐野保健所ホームページで公開。

《元気を支える環境（行政ができること）》

次のように、ライフステージ別に本町の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
妊娠期	①②	◇ 妊娠届時の面接における推奨体重増加量、食事バランス等について保健指導。	子育て支援課
	①②	◇ すくすく応援サポート電話（保健師・助産師による妊娠中の電話相談）時の体重コントロールの確認等保健指導を行い、必要時に栄養相談へつなげる。	
	①②	◇ プレママ教室（妊婦とそのパートナーを対象とした教室）や栄養講座の実施。	
乳幼児期	①	◇ 4か月児健診の集団の話や乳幼児健診時個別相談やすくすく相談等の機会を捉えて、各種母子保健事業時に朝食摂取等、食生活のリズムや栄養バランスについて指導。	子育て支援課

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	①②	◇ 離乳食講習会にて、離乳食の進め方を中心に、食生活のリズム形成や様々な食材を摂取し栄養バランスをとれるよう指導。	子育て支援課
	①②	◇ こんにちは赤ちゃん訪問及び8か月児訪問時に助産師・管理栄養士による離乳食の進め方と産婦の食生活に関する指導。	
	①	◇ にっこり教室やくまちゃん教室における講師による食生活に関する集団指導。	
	①	◇ ホームスタートによる離乳食づくりの支援等。	
	①	◇ 食生活改善推進員による、2歳半歯科健診時の栄養士による巡回指導の再開に向けた検討を進める。	健康・いきいき 高齢課
	①④	◇ 「熊取町立保育所全体的な計画」における「食育」についての取組として、日々の保育や栄養士の話を通して、食べ物や生活リズム、健康等について関心をもたせ、年齢に合わせて深める。	保育課 (町立保育所)
	④	◇ 菜園活動を通して、食材への関心を深める。	
	③④	◇ 給食を通して、メニューや食材に関心を持たせ、楽しく食事をする事、食事のマナー、感謝の気持ち等を育成。	
	①	◇ 定期的な健診（内科・歯科・眼科・耳鼻咽喉科）を実施し、子どもの健康状態を保護者と共有。	図書館
	④	◇ 管理栄養士及び保育所（園）・認定こども園・幼稚園の食に関する資料の提供。	
学齢期 (小学生)	①④	◇ 食生活改善推進員による親子クッキングを支援。	健康・いきいき 高齢課
	①	◇ 朝食や生活リズムの大切さについて学習。	学校教育課 (町立小中学校)
	②	◇ 生活習慣病予防等、健康な体づくりについて学習。	
	①④	◇ 3つの食品群や5大栄養素の学習を通じて、バランスよく食べることの必要性の理解と食材を選ぶ力を育成。	
	④	◇ 加工食品について学習し、選ぶ力を育成。	
	④	◇ 食品を選ぶ力の育成をめざした学習指導計画を作成。	
	④	◇ 給食指導で、準備と後片付け、好き嫌いなく食べることの大切さ、マナー、感謝の気持ち等を育成。	
	④	◇ 調理実習を通し、調理に対する関心を高め、安全に食事の準備ができる力を育成。	
	④	◇ 小学校の意向等を踏まえ、芋植え等、農作業の体験を通じて、生命の源である「食」を担う「農業」の大切さを学習。	産業振興課 学校教育課 (町立小中学校)

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	④	◇ 地場産の食材を給食に取り入れ、地域の産物や地産地消の大切さについて学習。	産業振興課 学校教育課 (町立小中学校)
	④	◇ ジュニアチャレンジ講座(ちびっこキャンプ・チャレンジキャンプ・サマーキャンプ)で、食事の準備から片づけまでを体験。また、残さず食べることで食べ物を大切にする意識を育成。	生涯学習推進課
	③	◇ くまとり元気広場で、地域ボランティアの協力による調理実習を実施。	
	④	◇ 町内小学校4年生を対象に環境教育セミナーを実施し、ごみの4Rの説明の1つとして食品ロスについて指導。	環境課
学齢期 (小学生) (中学生)	④	◇ 図書給食に関する資料の選定を学校図書館司書と実施。	学校教育課 (町立小中学校) 図書館
	④	◇ 各学校図書館で図書給食に関する本の展示を実施。	
学齢期 (中学生)	①④	◇ 食事の役割を学習し、朝食の大切さを知る。	学校教育課 (町立小中学校)
	①②	◇ 食生活を含め、健康的な日常生活を送ることが生活習慣病の予防につながることを学習し、理解を促す。	
	①	◇ 6つの食品群と栄養素の働きについて学習し、栄養バランスのとれた献立を考える。	
	④	◇ 加工食品の原料や特徴・保存方法・表示の見方や添加物について学習。	
	④	◇ 児童生徒が食品を正しく選択する力を育成するよう、家庭科で学習するとともに、感染症については保健体育科、日本型の食生活や行事食については英語科、食料生産については社会科でも学習する等、教科横断的な学習を実施。	
青年期	①②	◇ 国保特定健診・人間ドック受診者で、必要な方に対し、食事日記や体組成計結果を活用しながら食生活改善について指導。	健康・いきいき 高齢課
	①②	◇ 妊産婦に対して保健師・助産師が朝食摂取等、食生活のリズムや栄養バランスについて、保護者自身にも大切であることを指導。	子育て支援課
	①②	◇ 乳幼児健診・相談時に、管理栄養士が保護者に対して朝食摂取等、食生活に関して指導。	
	①④	◇ 保護者に対して、給食献立表を通じ、栄養バランス、季節の食材(野菜)、共食の大切さや行事食等について情報提供。	保育課 (町立保育所)
	④	◇ 給食・おやつの展示により、メニューや食材、一人分の目安量等を知らせる。	

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	④	◇ 給食試食会を実施し、児童食またはアレルギー食を試食することで、保育所給食への理解を深めるとともに、給食会議で意見を集約・共有し、献立の改善を実施。	保育課 (町立保育所)
	①④	◇ 月ごとの給食献立表を通し、メニュー、食材、栄養バランスについて情報提供。	学校教育課 (町立小中学校)
	④	◇ 給食だよりを発行し、栄養や衛生・旬の食材・行事食等、「食」に関する情報を発信。	
	④	◇ 学校給食試食会を実施し、給食を通して食べることにについて考える機会を提供。	
壮年期 高齢期	①②	◇ 国保特定健診・人間ドック受診者で、食事日記や体組成計結果を活用しながら食生活の改善が必要な方への個別指導。	健康・いきいき 高齢課
	①	◇ 各種検診・健診時に、体組成計やベジチェックや尿中ナトリウム比等を活用しながら食事バランスや減塩等について栄養相談を実施。	
	①③	◇ 食生活改善推進員による、各種料理教室や地域への出前講座等の活動支援。	
	①②③	◇ タピオステーション等で、支援メニューとして管理栄養士による講話や実習を実施。	
	①②	◇ (65 歳以上) 介護予防事業で、生活習慣病予防と介護予防のための食生活について知識の普及や実習を行い、実践できるよう支援。	
高齢期	①③	◇ はつらつ世代講座での調理実習を通じ、健康的な食事について学習。また、参加者と交流しながら楽しく食べることを体感。	生涯学習推進課
全年齢	①④	◇ 健康教室や食改料理教室や定例会を活用し食生活改善推進員を養成・育成。	健康・いきいき 高齢課
	④	◇ 農業祭の開催による地産地消・野菜摂取の推進と、農業体験による食料生産への関心を高める。	産業振興課
	④	◇ かむかむプラザ（公民館）の料理教室を活用し、世代を問わず、地産地消や食品ロス等の理解を高めるような講座及び家庭での食育につながるような講座の企画・実施。	生涯学習推進課 (公民館)
	③④	◇ 家族ふれ愛講座で、調理実習を通し、健康的な食事について学習。また、参加者と交流しながら楽しく食べることを体感。	生涯学習推進課
	④	◇ 環境フェスティバルで食品ロスに関するポスターの展示。	環境課
	④	◇ 特に食品ロス対策の一つとして「食べマンデー」の推進をPR。	

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	④	◇ 食生活改善推進委員会の協力のもと、冷蔵庫スッキリ！レシピを作成。	環境課
	④	◇ 食べ残しや食品ロスの削減として、お持ち帰り等、積極的に取り組む飲食店を「mottECO食べきり協力店」として認定する制度創設。	
	④	◇ 健康コーナーで、栄養・食生活に関する資料を提供。	図書館

高血圧の予防には生活習慣の見直しと改善が不可欠！

Na/K比（ナトカリ比）を下げ健康に！

コラム②

Na/K比(ナトカリ比)とは

尿中に排泄されるナトリウムとカリウムの比のことです。
「ナトカリ比」と血圧には強い関連があり、「ナトカリ比」を低くすることが高血圧・循環器病予防に有効であることがわかっています。
※日本高血圧学会では、至適目標を2未満、実現可能目標を4未満としています。

ナトカリ比を改善するためのポイント

- ☆男性は外食や中食の食べ方（濃い味付けや野菜の量）に留意
- ☆女性は調味料を使う頻度や味つけに留意
- ☆外食、中食の食塩量を減らすための食環境整備が必要
- ☆野菜の摂取量を増やす、特に朝食で野菜1皿以上を食べる
- ☆果物・牛乳・乳製品、豆類・大豆製品を積極的に食べる
- ★とりわけ、朝食時の野菜1皿以上の摂取はナトカリ比改善に有効に働く可能性が高いです。

資料：大阪公立大学大学院生活科学研究科 由田克士「熊取町国民健康保険特定健康診査受診者のスポット尿中のNa/K比（ナトカリ比）と食習慣との関連」改変

2. 身体活動・運動

■スローガン

あと30分！子どもの頃から活動量を高めよう

■めざす姿

① 子どもの頃からの運動習慣の確立

生活習慣病予防は子どもの頃からの習慣の積み重ねが重要であり、乳幼児期、学齢期からの運動習慣の確立を促します。

② 働き世代からのフレイル予防の充実

高齢期における筋肉、骨や関節等の障がいによる、歩行困難等、日常生活での障がい（ロコモティブシンドローム：運動器症候群）や加齢に伴う不活発等による身体機能の低下（フレイル：虚弱）を予防するため、働き世代からの健康教育・健康相談、フレイルチェック等、フレイル予防に努めます。

③ 気軽に運動できる環境づくり

若い世代や働き盛りの世代も含む全世代が、身体活動（日常生活動作含む）・運動の習慣化に向けて、SNS等も活用し、ウォーキングやくまとりタピオ元気体操、タピオ体操＋（プラス）をはじめとした運動の機会について情報発信し、地域、関係機関、町内大学、行政が連携し、気軽に運動できる環境整備を推進します。

④ タピオステーションの普及

地域ぐるみで高齢者が身近な場所で体力づくりに取り組める環境づくりにより、住み慣れた地域で元気アップに取り組む拠点「タピオステーション」の参加者を増やせるよう努めます。

⑤ 健康アプリ（アスマイル等）の活用推進

健康アプリ（アスマイル等）の活用を推進し、身体活動量の増加を図ります。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
子どもの運動習慣 1回30分以上週2回以上する者の割合	幼児及び小学校低学年	81.3%	増やす	町独自・前回目標 70%
	小6・中2	76.0%		
大人の運動習慣 1回30分以上週2回以上する者の割合	20歳以上	42.1%	増やす	大阪府目標 40%
【新】歩数を計測する者の割合	20歳以上	29.8%	33.0%	町独自 1割増加
【新】運動をしない理由 「興味・関心がない、必要を感じない」者の割合	20歳以上	16.0%	14.0%	町独自 1割減少

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- テレビやゲームを少なくして、できるだけ外で遊ぶようにします。
- 体育の授業等でしっかり体を動かすよう心がけます。
- 家事や仕事等の合間で、日常的に身体を動かします。
- 趣味やレジャー等を通じて、身体を動かすように心がけます。
- 自分にあった体操やウォーキング等の運動に取り組みます。
- 健康づくりの催しやスポーツ行事等に積極的に参加します。

《地域の元気（地域でできること）》

団体名	記述内容
泉佐野泉南歯科医師会（熊取地区）	・適度な運動と、そこに関わる歯の重要性の説明。
町内大学	・講義の中でも知識だけではなく、自分、地域の健康を考えられるように実践に向けた配慮・支援を実施。 ・スポーツは選択科目となっているが多くの学生が履修。運動の必要性について理解を促進。 ・タピオ体操の普及活動を支援し、「DASHプロジェクトに関する協働協定」に基づいた、中学校部活動へスポーツ指導者の派遣やフレイル予防サポーター講座への講師派遣。 ・楽しく生きる知恵さがしへの講師派遣等により、運動・スポーツに親しむ環境づくりを推進。
熊取町長生会連合会	・輪投げ（毎週）・吹き矢（毎週）・カラオケ（毎週）・野外活動（年1回）・料理教室（年2回）・ホットシニア（年1回）・歩こう会等（年1回）の実施。
熊取町社会福祉協議会	・たのしく生きる知恵さがし：高齢者のフレイル予防を主とした身体活動を目的とし、参加者間の地域でのつながりに配慮した人間関係づくりにも心がけて実施。 ・さくら会：65歳以上の一人暮らしの方が、月1回、趣味や運動等、気軽に参加できる内容で参加者間の交流を促進。
熊取町民生委員児童委員協議会	・地区で行っているタピオステーションの後方支援。

団体名	記述内容
健康くまとり探検隊	・公開ウォークの実施：ツキイチウォーキング（7、8、9月以外の月1回、短縮コースあり）、ふれあいウォーキング（新コースマップ作成中）、ちょこっとウォーキング（親子ウォーキング検討中）、出前ウォーキング（タピオステーション継続支援）。 ・ツキイチウォーキングのウォーキングコースにもなっている町内ウォーキングマップ「ものしり健康歩く路」No.1～9を作成し、ウォーキングの参考にしてもらえるように配布中。 ・他市町とのウォーキング（道草会、メッチャポール隊）。 ・健康増進につなげる教育講座への参加・協力：フレイル予防マスター講座。
くまとりタピオ元気体操ひろめ隊	・タピオ練習日における体操、筋トレ等の指導。 ・ふれあい元気教室における体操の指導。 ・出前講座の実施。
タピオステーション	・タピオ体操+（プラス）DVD（タピオ体操、お口の体操、筋トレ、ストレッチ、頭の体操）とDVD以外の独自の脳トレやゲーム、レクリエーションの実施。
子育て支援関係NPO団体	・ひろばで子どもが遊ぶ際に、しっかりと身体を動かして遊べる環境を整えているほか、保護者向けのヨガの時間等を設定。
町内民間保育園・認定こども園・幼稚園	・3歳児から5歳児は週に1回、体育専門の講師による体育指導を実施。 ・3歳児（希望者のみ）からは全身運動によるからだづくり、免疫力向上等を目的に月2回程度のスイミングのレッスンの実施。 ・毎日の外遊び（園庭遊び）。 ・運動会の練習（踊りやかけっこ、組み体操等）。

≪元気を支える環境（行政ができること）≫

次のように、ライフステージ別に庁内の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
乳幼児期	①③	◇ すくすく相談・にっこり教室等で保育士・作業療法士・理学療法士がミニ講座や相談の中で、遊び等を通じて楽しく体を動かすことの大切さを伝える。	子育て支援課
	①③	◇ タピオ体操ひろめ隊及び健康くまとり探検隊の協力を得て、すくすく相談等で乳幼児の保護者を対象にタピオ体操のミニ講座を実施する。	
	①③	◇ 戸外散歩等を取り入れ、歩育の推進を図る。	保育課 (町立保育所)
	①③	◇ 身体を使った遊びを充実する。	
	①③	◇ タピオ体操やラジオ体操、リズム体操等を保育中の活動に取り入れ、柔軟な体づくりや体を動かす楽しさを伝える。	
学齢期	①③	◇ 体育の授業やその他の体育活動を通じ、児童生徒が主体的に運動を行い、身体を動かすことが楽しいと感じられる学習指導の実践。	学校教育課 (町立小学校) (町立中学校)
	①③	◇ 運動の大切さや運動時の安全への配慮等、運動にかかる知識を身につける。	
	①③	◇ 夏休みのラジオ体操や、スポーツイベントの開催等、みんなで楽しめるような身体活動を促す。	生涯学習推進課
	①③	◇ 子ども会のスポーツ活動を支援する。	生涯学習推進課
	①③	◇ スポーツ少年団の加入促進や各団体間による情報交換の場として、結団式及び体験会の実施。	
青年期 壮年期	②③④	◇ フレイル予防やボランティア養成を目的としたDASHプロジェクト「フレイル予防マスター講座」の実施。講座終了後は、健康くまとり21推進グループやひまわりドーム、タピオステーションにつなげる。	健康・いきいき 高齢課
	②	◇ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業として、集団健診受診者のフレイルチェックと体組成計の結果から対象者を絞り、フレイル予防相談会を実施。	
	②③	◇ フレイル予防が必要な対象者に、運動や栄養指導を案内。健康教育のひとつとして、ひまわりドーム連携事業「動けるカラダづくり講座」を運動と栄養で筋力アップの内容で、年2回実施。	
高齢期	③	◇ くまとりタピオ元気体操ひろめ隊による「タピオ練習日」の支援及び新規隊員を発掘。	健康・いきいき 高齢課

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	③	◇ タピオ体操の普及を兼ねて、一般参加者を受け入れながら体操の練習やレクリエーションを実施。合わせて、年6回大阪体育大学教授による運動実技を実施。	健康・いきいき 高齢課
	③④	◇ 住民主体の介護予防活動の拠点である「タピオステーション」の地域展開を支援。	
	③④	◇ 教室終了後の自主グループの育成と支援。	
	③	◇ 「楽しく生きる知恵さがし」を社会福祉協議会に委託し開催。	介護保険課
	③	◇ 要支援1・2及び事業対象者を対象に、介護予防を目的とした、ふれあい元気教室（運動機能向上・口腔機能向上・栄養改善）を開催。	
	③	◇ 満65歳以上の方で、運転免許の全部を自主的に公安委員会に返納された方、または運転免許を失効し運転経歴証明書の交付を受けた方からの申請により、ひまわりバス無料定期乗車券（有効期間5年間）を交付する「高齢者運転免許自主返納支援事業」により高齢者の日常生活を支援。	道路公園課
全年齢	③	◇ くまとりタピオ元気体操及びタピオ体操+（プラス）DVD、CD、ノルディックウォーキングのスティックの貸出。	健康・いきいき 高齢課
	⑤	◇ 「おおさか健活マイレージ アスマイル」の取組に参画し、住民の健康をサポート。ホームページ等で周知、啓発。	保険年金課
	③	◇ 長池オアシス公園、大原池及び大原公園にウォーキングコースを提供。	道路公園課
	③	◇ 永楽ゆめの森公園にバリアフリー化された主園路及びその周辺に散策路を設置。	
	③	◇ 熊取町緑と自然の活動推進委員会による野外活動ふれあい広場を活用した自然体験事業を支援。	
	③	◇ 永楽ゆめの森公園を活用した各種教室を開催。	生涯学習推進課
	③	◇ スポーツ推進委員主催のスポーツ教室やスポーツフェスティバル等を通じて体験機会を提供。	
	③	◇ 一般社団法人ミニらいとモルック協会主催による誰もが気軽にスポーツができるミニらいとモルックについて、小学校体育館の開放・支援。	

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	③	◇ ひまわりドーム等公共施設への交通手段として、ひまわりバスの利用を促進。	道路公園課
	③	◇ 図書館の秋の催し（「としよフェス」等）にて、タピオ元気体操ひろめ隊による「タピオ体操」を実施。	図書館
	③	◇ くまとりタピオ元気体操及びタピオ体操+（プラス）CD・DVDの貸出。	
	②③	◇ 健康くまとり探検隊の活動展示。	

みんなでやろう！ みんなでいこう！

タピオ体操 タピオステーション

コラム③

タピオ体操とは？

タピオ体操は、大阪体育大学の協力のもと、熊取町が作成した体力づくりプログラムです。ストレッチングや筋力トレーニング、頭の体操などを組み合わせ、日常生活に必要な筋力やバランス力向上などを目的としています！

タピオ体操の効果

①脚の力が向上！

脚力は立ったり座ったり、元気な生活を送るために重要です。

②バランス能力の低下を予防！

バランス能力の維持は転倒予防にもつながります。

①②のどちらもタピオステーション参加者の能力は全国平均を上回りました！



参加者の皆さんの声

週1回の外出で生活にリズムがついた！

身体が柔らかくなり、肩や腕が動きやすくなった！

地域の方との交流の場となり、知り合いが増えて楽しい！

資料：大阪体育大学作成「タピオ体操・タピオステーション」

3. 休養・睡眠

■スローガン

正しい生活リズムでぐっすり睡眠、しゃきっと早起き

■めざす姿

- ① 乳幼児期から早寝早起きで生活リズムを確立
乳幼児期から、早寝・早起きを実践し、正しい生活リズムを身につけます。また、各保健事業や小中学校と連携を図り、適正な睡眠のとり方の普及啓発を行います。
- ② 睡眠による休養の確保
睡眠不足や睡眠障害がこころの健康だけでなく、生活習慣病の一因となることを理解し、睡眠による休養を十分にとれるよう努めます。
- ③ 余暇や休養の確保と主観的健康観の向上
自身を健康と感じられるように、余暇や睡眠等による休養を確保することの重要性を周知します。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
起床時間8時台以降である者の割合	幼児及び小学校低学年	3.5%	3.0%	町独自 1割減少
就寝時間11時台以降である者の割合	幼児及び小学校低学年	3.1%	2.5%	町独自 1割減少
睡眠による休養を十分にとれている者の割合	20歳以上	55.4%	70.0%	町独自・前回目標 70%
【新】睡眠時間が十分に確保できている者の増加 (睡眠時間6～9時間)	20歳以上	62.4%	増やす	大阪府目標 60%
主観的健康観が「とても健康・どちらかといえば健康」の者の割合	20歳以上	75.8%	83.0%	町独自・前回目標 83%

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- 早寝・早起き、規則正しい生活を心がけます。
- 自分にあったリラックス法やストレス解消法を身につけます。
- ワークライフバランスを心がけます。

「地域の元気（地域でできること）」

団体名	記述内容
泉佐野泉南歯科医師会（熊取地区）	・ ストレスや自律神経の乱れは口腔内にもいろいろな形で現れるため、口腔内を見てそれが疑われる場合に相談対応を実施。
熊取町社会福祉協議会	・ 専用のスマホ回線で、引きこもりがちな人等への相談対応。 ・ 第1金曜日の午後、図書館でふらっとルームを開き、気軽に立ち寄れる居場所づくりの実施。
子育て支援関係NPO団体	・ 町の保健師が定期的に訪問し、保護者自身のことや子どものことについて相談できる機会を設定。
町内民間保育園・認定こども園・幼稚園	・ 誰でも受診可能なキンダーカウンセラーによるケアの実施。

「元気を支える環境（行政ができること）」

次のように、ライフステージ別に市内の取組内容を整理しました。

ライフステージ	めざす姿	取組内容	部署
乳幼児期	①	◇ くまちゃん教室・にっこり教室等で、早寝・早起き等の生活リズムに関する健康教育等を行い、生活リズムの大切さを伝える。	子育て支援課
	②③	◇ 妊娠中・産後に休養・睡眠が取れない妊産婦に産後ケア事業を実施。	
	①	◇ 日常の保育業務の中で、早寝・早起き等、生活リズムの大切さを伝える。	保育課 (町立保育所)
	①③	◇ 「保育所だより」や「ほけんだより」を通して生活リズムの大切さを周知。	
学齢期	①③	◇ 保健便りの配布。 ◇ 月ごとに保健便りを配布し、健康に関する情報提供を実施しました。 ◇ 長期休業中に健康について配慮すべきこと等を、保健便りを通じて周知を行いました。	学校教育課 (町立小学校) (町立中学校)
	①②③	◇ 小中連携を図り、発達段階に見合った指導を系統的に実施。	
青年期 壮年期	②③	◇ 特定健診結果説明会や特定保健指導、通いの場等の相談対応時に、チェックリストやアンケートを用いて、睡眠や休息、精神面の状況を確認し保健指導を実施。	健康・いきいき 高齢課
高齢期	②③	◇ 介護予防事業の中で、フレイル予防のための生活リズムの重要性、趣味活動や外出の重要性について周知。	健康・いきいき 高齢課
全年齢	②③	◇ 健康コーナー及び電子図書館で、休養・睡眠・こころの健康に関する特集展示を行う。	図書館

4. たばこ

■スローガン

生まれる前から煙だらけにしないでね

■めざす姿

① 望まない受動喫煙の防止

望まない受動喫煙の防止に向けた環境整備に取り組みます。

② 正確な知識の普及と幼少期からの禁煙教育

たばこと健康について正確な知識を普及し、学齢期からの禁煙教育を行います。

③ 禁煙指導の実施

妊娠届時や乳幼児健診時及び特定健診や肺がん検診時に禁煙指導を行うほか、特定保健指導時にも保健師・管理栄養士によるパンフレットを用いた禁煙指導を引き続き実施します。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
喫煙をする者の割合	20歳以上・男	17.6%	15.0%	大阪府目標 男性 15.0% 女性 5.0%
	20歳以上・女	4.2%	減らす	
妊婦で喫煙をする者の割合		2.0%	0.0%	大阪府目標 0%
【新】望まない受動喫煙 の機会のない者の割合	小6・中2	44.4%	50.0%	町独自 1割増加
たばこへの興味が 「ある・少しある」者の割合	小6・中2	8.2%	4.0%以下	町独自・前回目標 4%以下

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

○妊娠中や妊娠の可能性がある場合は、たばこを吸いません。

○学齢期からたばこが及ぼす健康への影響を学びます。

○喫煙者は子どもやたばこを吸わない人の前では吸いません。

<<地域の元気（地域でできること）>>

団体名	記述内容
泉佐野泉南歯科医師会（熊取地区）	・禁煙指導の実施。
泉佐野薬剤師会	・大阪府薬剤師会が行っている禁煙一声運動を、春・秋で行っているため、それに伴い各薬局で禁煙運動を実施。 ・学校薬剤師が各小中学校で薬物乱用防止教室を行い、酒・たばこ・大麻・覚せい剤等の知識の普及・啓発活動を実施。
町内大学	・学内の全面禁煙の実施。
大阪府 泉佐野保健所	・管内禁煙治療医療機関一覧の作成。 ・飲食店の受動喫煙防止対策、飲食店へ「原則屋内禁煙」の啓発活動。 ・府民からの受動喫煙相談や禁煙治療相談への対応。 ・保健師学生等の実習生や大学への啓発活動。 ・管内市町、学校等へ啓発ポスターの配布。

<<元気を支える環境（行政ができること）>>

次のように、ライフステージ別に市内の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
妊娠期	③ ①③	◇ 妊娠届出時に喫煙が胎児に与える影響について保健指導を実施。 ◇ 妊娠届を活用した妊婦への禁煙指導と同居者へ分煙指導。	子育て支援課
乳幼児期	①② ③ ③	◇ にっこり教室等でたばこの誤飲、誤嚥事故予防及び受動喫煙防止に関する保健指導を実施。 ◇ 乳幼児健診時、喫煙者にリーフレットを用いて子どもへの影響等を含め保健指導。 ◇ 出生届時に乳幼児突然死症候群（SIDS）のチラシの配布と発症率を低くするポイント等の指導。	子育て支援課
学齢期	② ② ②	◇ 非行防止教室における、喫煙に関する学習の実施。 ◇ 担任と養護教諭のTT（チームティーチング）による指導。 ◇ 保健所で借りた教材の活用。	学校教育課 （町立小学校） （町立中学校）
青年期 壮年期 高齢期	③ ③ ③	◇ 特定健診の医師診察時の禁煙指導の実施。 ◇ 特定健診時に「喫煙の有無」の項目を追加し、喫煙者には医師診察時や保健師・管理栄養士による保健指導時にパンフレットを用いて禁煙指導を実施。 ◇ 肺がん検診において、喫煙者に喀痰検査を勧奨。	健康・いきいき 高齢課
全年齢	① ① ② ②	◇ 熊取駅東西自由通路、駅前夢広場、熊取駅西交通広場、町道熊取駅前線等の路上喫煙禁止区域内での路上喫煙禁止啓発を実施。 ◇ 健康増進法に基づき、施設内の禁煙を推進し、望まない受動喫煙のない環境づくりをめざす。 ◇ 健康コーナー等で、たばこと健康についての資料を提供。 ◇ 子ども向け資料、ティーン向け関連資料も設置し、学齢期の指導等に学校図書館を通して活用する。	環境課 公共施設管理者 図書館

5. アルコール

■スローガン

適正飲酒、女性1日1合まで・男性1日2合まで

■めざす姿

① 20歳未満の飲酒の防止

小中学校と連携し、飲酒による健康への影響について正しい知識の普及啓発により、20歳未満の飲酒を防止します。

② 妊娠・授乳中の者の飲酒の防止

飲酒による胎児・子どもに及ぼす影響等、正しい知識の普及啓発に努め、妊娠・授乳中の者の飲酒を防止します。

③ 適正飲酒の周知・啓発

適正飲酒（飲酒量、飲酒頻度、休肝日）及び飲酒による健康への影響について周知を行います。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
お酒への興味が 「ある・少しある」者の割合	小6・中2	39.4%	35.0%	町独自・前回目標 35%
生活習慣病のリスクを 高める量の飲酒をして いる者の割合	20歳以上・男	28.4%	13.0%	大阪府目標 男性 13.0% 女性 6.4%
	20歳以上・女	26.3%	6.4%	
多量飲酒をしている者 の割合	20歳以上・男	9.1%	6.0%	町独自・前回目標 男性 6% 女性 2%
	20歳以上・女	2.9%	2.0%	
妊婦で飲酒をする者の割合		0.4%	0.0%	大阪府目標0%

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- 学齢期から正しい知識を持ち、20歳までは飲酒しません。
- 未成年者や妊婦、授乳中の人にお酒を勧めません。
- 妊婦、授乳中の人はお酒を飲みません。
- 好ましい飲酒習慣について理解します。（量、頻度、休肝日）

《地域の元気（地域でできること）》

団体名	記述内容
大阪府 泉佐野保健所	・アルコール関連問題啓発週間に合わせてロビー展示を行い、アルコール依存症に関する知識の普及や、適正飲酒、相談窓口を啓発。 ・管内の精神科医療機関へ啓発ポスターの配布を行い、周知を促進。

《元気を支える環境（行政ができること）》

次のように、ライフステージ別に庁内の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
妊娠期	②	◇ 妊娠届出時の面接にて飲酒状況の確認と保健指導を実施。	子育て支援課
乳幼児期	②③	◇ 乳幼児健診の間診で、授乳中の方を含め保護者の飲酒状況の確認と保健指導を実施。	子育て支援課
学齢期	①	◇ 非行防止教室における、アルコールに関する学習の実施。	学校教育課 (町立小学校) (町立中学校)
	①	◇ 担任と養護教諭のTT(チームティーチング)による指導を実施。	
青年期 壮年期 高齢期	③	◇ 特定健診結果説明会の一般相談や特定保健指導時に、飲酒状況を確認し、健診結果を踏まえ本人の意志を確認しながら、保健指導を実施。	健康・いきいき 高齢課
全年齢	①②③	◇ 必要時に備え、泉佐野保健所開催のアルコール依存症の研修会等に参加し、関係機関から情報収集・連携体制を構築。	健康・いきいき 高齢課 子育て支援課
	③	◇ 健康コーナー等で関連資料を提供。	図書館
	①	◇ 子ども向け資料、ティーン向け関連資料も設置し、学齢期の指導等に学校図書館を通じて活用。	

6. 歯・口腔の健康

■スローガン

毎日お口の手入れ、毎年歯科健診

■めざす姿

- ① 正しい歯みがき習慣の定着
歯・口腔の健康は、全身の健康に大きく関わっていることを周知し、乳幼児期から歯みがきの習慣の定着と、またフッ化物応用によるむし歯予防の普及啓発に努めます。
- ② かかりつけ歯科医での定期的な受診
かかりつけの歯科医をもち、定期的な歯科健診等の受診によるむし歯・歯周病等の予防・早期発見に努めます。
- ③ オーラルフレイル（口腔機能の維持・向上）対策の実施
特定健診時の歯科相談やふれあい元気教室、タピオステーション等、様々な機会を活用して、咀嚼機能や嚥下機能の低下を防ぎ、口腔機能の維持・向上を図ります。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
3歳6か月児健診でう歯のない者の割合		90.1%	95.0%以上	大阪府目標 95%以上
【新】12歳児（中1）歯科健診でう歯のない者の割合		87.9%	95.0%以上	大阪府目標 95%以上
定期的（年1回程度） に歯科健診を受けた者の 割合	20歳以上	56.2%	95.0%以上	大阪府目標 95%以上
歯みがきを1日に3回 以上する者の割合	小6・中2	17.8%	35.0%	町独自・前回目標 35%
自分の歯が24本以上 ある者の割合	60歳代	55.3%	95.0%以上	大阪府目標 95%以上
【新】自分の歯が20本 以上ある者の割合	80歳代	37.4%	85.0%以上	大阪府目標 85%以上

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- 幼児には大人が仕上げ磨きをし、子どもの頃から毎日歯を磨く習慣を身につけます。
- フッ素塗布やフッ素入り歯みがき粉等を取り入れたむし歯予防を行います。
- かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受けます。
- 歯間部清掃用器具を使ったセルフケア（歯と口の清掃）を行います。
- 口の機能の向上のために必要な知識を身につけます。
- 食事やおやつの時間と量を決め、ダラダラ食べをなくします。

《地域の元気（地域でできること）》

団体名	記述内容
泉佐野泉南歯科医師会 （熊取地区）	・口腔内から生活習慣の改善、そのほかの疾患の可能性を導き出し、口腔だけでなく全身状態の把握。 ・歯科検診の充実と医歯薬のさらなる連携。
タピオステーション	・お口の体操に加えて会話の機会を増やすことで、フレイル予防を実践。
子育て支援関係 NPO団体	・年1回0～5歳の歯科検診を実施。 ・年2回の歯と食育の講座を開催。 ・2～5歳児クラスには歯に対する保健指導を実施（絵本や紙芝居の読み聞かせや歯の磨き方の指導）。
町内民間保育園・認定 こども園・幼稚園	・看護師による歯みがき指導の実施。 ・毎日の昼食後の歯みがき。 ・年1回全園児を対象に歯科医による歯科検診を実施。 ・保健指導での歯みがき指導。 ・歯科検診。

《元気を支える環境（行政ができること）》

次のように、ライフステージ別に庁内の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
妊娠期	②	✧ 妊婦歯科健診の実施。	子育て支援課
乳幼児期	①②	✧ 1歳7か月児健診、2歳6か月児歯科健診及び3歳6か月児健診時において、歯科衛生士より歯科保健相談とフッ素塗布を実施。	子育て支援課
	①③	✧ すくすく相談時での保護者への歯科相談と保健指導の実施。	
学齢期	①	✧ 歯科健診の実施。	学校教育課
	①	✧ 専門家を招へいし、歯みがき指導を実施。	(町立小学校)
	①	✧ 保健だよりによる歯の健康に関する周知。	(町立中学校)
青年期 壮年期	②③	✧ 集団健診受診者にフレイルチェックを行い、口腔機能で予防が必要な者を対象に歯科相談を案内・実施。	健康・いきいき 高齢課
	②③	✧ 3市3町（熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町）において、20歳以上74歳以下を対象に、成人歯科検診を実施。	
高齢期	③	✧ タピオステーション立ち上げ支援や継続支援で歯科衛生士と言語聴覚士によるオーラルフレイル予防に関する講話の実施。	健康・いきいき 高齢課
	③	✧ タピオステーションで取り組んでいる体操のタピオ体操+（プラス）の中にお口の体操も含み、各実施地区での定期的な取組を支援。	
	①③	✧ ふれあい元気教室における歯みがき指導の実施。	介護保険課
	②	✧ 全被保険者に年1回無料で受診可能な歯科健診の案内を大阪府後期高齢者医療広域連合より送付。	保険年金課
全年齢	①③	✧ 健康コーナーで関連資料を提供。	図書館
	①	✧ 毎年1回児童書及び一般書で特集展示を実施。	

7. 健康チェック

■スローガン

とにもかくにも受けよう健（検）診

■めざす姿

- ① 乳幼児から継続的に健診を受け、健康管理
乳幼児期の健康診査の受診率向上とともに未受診者へのアプローチを行い、疾病等の早期発見・早期支援を行います。
- ② 生活習慣病やがんの早期発見
特定健診やがん検診及び要精密検査対象者に、早期発見・早期治療につながるよう受診勧奨を行い、早期発見に努めます。また、職域保健と連携し、働く世代へもアプローチします。
- ③ 生活習慣病の重症化予防
生活習慣病予備群へ、早期から保健指導を実施します。未治療やコントロール不良、治療の中断等、リスクの高い者に、受診勧奨・受診確認を行い、重症化予防を図ります。
- ④ 健（検）診を受診しやすい環境づくり
医師会やかかりつけ医との連携を図るとともに、健（検）診費用の無償化による受診しやすい環境づくりを行います。また、特定健診とがん検診の同時実施やセット検診の充実及びWEB予約システムの周知等、若い世代の受診を促進します。
- ⑤ 女性のロコモ・フレイル・骨粗しょう症予防
ロコモ・フレイル・骨粗しょう症の早期発見・早期対策として、若い時から体組成計測定やフレイルチェック、骨粗しょう症検診の機会を増やします。
- ⑥ ヘルスリテラシーの向上
SNS等を活用し、健（検）診や保健指導の効果的な受診勧奨を行い、アプリを含む健康管理方法や健（検）診の重要性等、健康についての情報を発信し、ヘルスリテラシーの向上に努めます。

■評価指標

項 目	ベースライン値	目標値	設定根拠
	令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
特定健診受診率	37.9% (令和4年)	60.0%	第4期特定健康診査等 実施計画より

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和 6 年度 (2024)	令和 12 年度 (2030)	
【新】特定保健指導実施率		27.5% (令和 4 年)	60.0%	第 4 期特定健康診査等 実施計画より
【新】メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群該当者割合)		20.0% (令和 5 年)	15.0%	第 4 期特定健康診査等 実施計画より
【新】未治療者の 割合	高血圧受療勧奨（受 療有/対象者）	50.5% (令和 4 年度)	53.0%	第 4 期特定健康診査等 実施計画より
	糖尿病受療勧奨（受 療有/対象者）	77.1% (令和 4 年度)	80.0%	第 4 期特定健康診査等 実施計画より
	L D L コレステロー ル要医療者受療勧奨 (受療有/対象者)	50.0% (令和 4 年度)	60.0%	第 4 期特定健康診査等 実施計画より
がん検診受診率	胃（50～69 歳）	6.2% (令和 4 年度)	6.9%	地域保健・健康増進事 業報告より 全国（R4）実績値 胃：6.9% 大腸：6.9% 肺：6.0% 乳：16.2% 子宮：15.8%
	大腸（40～69 歳）	5.1% (令和 4 年度)	6.9%	
	肺（40～69 歳）	5.4% (令和 4 年度)	6.0%	
	乳（40～69 歳）	16.4% (令和 4 年度)	増やす	
	子宮（20～69 歳）	17.0% (令和 4 年度)	増やす	
町の がん検診精密検 査受診率	胃（40 歳以上）	87.2% (令和 4 年度)	90.0%	第 4 次大阪府がん対策 推進計画より 胃：90% 大腸：90% 肺：90% 乳：95% 子宮：90%
	大腸（40 歳以上）	71.0% (令和 4 年度)	90.0%	
	肺（40 歳以上）	83.8% (令和 4 年度)	90.0%	
	乳（40 歳以上）	93.5% (令和 4 年度)	95.0%	
	子宮（20 歳以上）	92.3% (令和 4 年度)	増やす	
【新】後期高齢者医療健診受診率		22.85% (令和 5 年度)	26.9%	大阪府後期高齢者医療 広域連合目標より
【新】骨粗しょう症検診受診率		1.48% (令和 5 年度)	15.0%	大阪府目標 15%
【新】フレイルチェック実施数 集団健診（特定健診・後期高齢者医療 健診）受診者に実施		1,627 件 (令和 5 年度)	1,800 件	町独自 1 割増加
【新】アスマイルの登録者数		1,095 人 (令和 5 年度)	1,200 人	町独自 1 割増加
【新】健診の受け方が分からない者の割合		13.4%	12.0%	町独自 1 割減少

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- 健（検）診を定期的に受診して自分の健康状態を知るよう心がけます。
- 健（検）診後は必要に応じて生活習慣の見直しや医療機関受診をします。
- 生活習慣病やがん、介護予防に関する知識を身につけます。
- こころや身体の調子に気をつけて、相談や医療機関受診等、早めに対応します。

《地域の元気（地域でできること）》

団体名	記述内容
泉佐野泉南医師会 （熊取班）	・乳幼児健診から特定健診や後期高齢者医療健診、がん検診や予防接種事業など多岐にわたり町の保健事業に協力する。 ・脳卒中予防や、心不全の予防など、町や保健所と協力して取り組む。 ・医師生涯教育において選んだ項目についてセミナーを行い、周知徹底。
泉佐野薬剤師会	・健診結果について患者から相談があれば適切な指導助言を行うほか、特に有所見者には受診勧奨を実施。 ・各薬局で、健康サポート機能を発揮し住民の健康維持増進に寄与する。
町内大学	・年に一回の健康診断を実施。
熊取町食生活改善推進協議会	・結果説明会時の野菜摂取の促進。
健康くまとり探検隊	・体力チェックの実施：結果説明会時に実施（令和4年度冬～）、タピオステーション、楽しく生きる知恵さがし（令和5年度～）。 ・体力測定の出前講座の実施
町内民間保育園・認定こども園・幼稚園	・年に1回耳鼻科健診（全学年）、眼科健診（3～5歳児）、年2回内科健診（全学年）、毎月身体測定を行い、記録し保護者と共有。 ・毎日、保育教諭が検温・視診を行い、看護師と連携し保護者に共有。
大阪府 泉佐野保健所	・地域、職域連携推進事業として、地域保健、職域保健が連携し、「禁煙支援」「フレイル・サルコペニア予防」「高血圧予防」「特定健診・がん検診受診勧奨」の4つのテーマから具体的な取組を決定し、実施していく。地域保健と職域保健が連携することで、働く世代への健康課題にもアプローチする。

《元気を支える環境（行政ができること）》

次のように、ライフステージ別に庁内の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
妊娠期	①⑥	✧ 妊娠届時に受診券を交付するなど、妊婦健診について情報提供を行い、受診を促進。	子育て支援課
乳幼児期	①	✧ 乳幼児健診及び経過観察健診を実施。	子育て支援課
	①⑥	✧ 健診未受診者に対して保健師が訪問・電話等を行い、全数把握に努める。他機関とも連携しながら、子育て支援（赤ちゃんとの適切な関わり方、接し方）、虐待予防の視点を踏まえながら取り組む。	
	①⑥	✧ 保護者へ乳幼児健診を受診するよう働きかける。	保育課 (町立保育所)
	①	✧ 保育所で実施している定期的な健診で、子どもたちの健康状態を把握する。	
	①⑥	✧ 乳幼児健診の場で、ブックスタート等、本による親子のコミュニケーションの大切さを、担当課や関係団体と連携しながら伝える。	図書館 子育て支援課
学齢期	①	✧ 定期的な健診の実施と家庭への周知。	学校教育課 (町立小学校) (町立中学校)
青年期 壮年期 高齢期	②	✧ 乳幼児健診保護者に対し、パンフレット等で乳・子宮がん検診を周知。	健康・いきいき 高齢課
	③⑥	✧ 国保特定健診受診者のうち必要な方へ、生活習慣改善に関する特定保健指導や受診勧奨を行い、重症化予防に取り組む。糖尿病性腎症重症化予防事業を実施する。（74歳まで）	
	②④⑤	✧ 胃・大腸・乳・子宮頸部・肺・前立腺がん検診、骨粗しょう症・肝炎ウイルス検診を実施し、疾病の早期発見・早期治療に取り組む。（高齢期まで）	
	②④	✧ 胃がん（X線）、乳がん、子宮頸部、肺がん（喀痰検査）、骨粗しょう症検診の自己負担額の無償化。	
	②⑥	✧ 20歳女性及び40歳女性に、子宮がん検診受診勧奨はがきを送付。	
	②④	✧ 乳がん検診と大腸がん検診同時実施の日を設け、セット検診を拡大。	
	②④	✧ けんぽ組合と連携し、けんぽ組合の健診と、町のがん検診を同時実施する機会を設ける。	

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	②④	◇ がん検診等WEB予約システムによる予約受付や受診勧奨を実施。	健康・いきいき 高齢課
	②⑥	◇ 節目年齢に検診受診勧奨通知を送付。	
	⑤	◇ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業として、集団健診受診者のフレイルチェックと体組成計の結果から対象者を絞り、フレイル予防相談会を実施。	
	②④	◇ 20歳代の国保加入者を対象に、スマートフォンでの申込み、郵送による簡易血液検査の「スマホ de ドック」を実施。	保険年金課 健康・いきいき 高齢課
	②	◇ 30歳以上 75歳未満の国保加入者を対象に特定健診を実施。	
	②⑥	◇ 国保加入者の特定健診受診対象者で前年度の特定健診未受診、医科未受診のハイリスクの対象者に特定健診の受診を勧奨する「健幸で始めま賞」を実施。(74歳まで)	
	②⑥	◇ 国保加入世帯で特定健診等受診対象者全員が前年度に特定健診等を受診し、かつ医科の受診がなかった健康増進世帯を表彰し特定健診の必要性を周知する「健幸でがっちり賞」を実施。(74歳まで)	
高齢期	②③	◇ 一人暮らしの高齢者及び75歳以上の高齢者のみの世帯を対象に「みまもりアンケート」を実施。令和2年度から介護予防の視点を強化するため、対象者を65歳以上の独居高齢者及び75歳以上高齢者に変更。	介護保険課
	②⑥	◇ 全被保険者に年1回、無料で受診可能な健康診査の案内と受診券を大阪府後期高齢者広域連合より送付する際、本町集団健診の日程等を記載した独自のチラシを同封し、周知。	保険年金課
	③④	◇ 後期高齢者医療健診の集団健診を国保加入者の集団特定健診と同日実施する。	保険年金課 健康・いきいき 高齢課
全年齢	⑥	◇ 健康コーナー等で情報提供。	図書館
	⑥	◇ 闘病記文庫の設置により、各病気の体験についての資料を提供。	

8. 地域とのつながり

■スローガン

手を取り合って、人と地域とつながろう

■めざす姿

- ① 住民主体の地域交流の豊かな健康まちづくり
住民一人ひとりが地域とのつながりの大切さを実感できる機会を増やし、地域や世代間の交流が豊かなまちづくりを推進します。
- ② 行政機関と連携した健康まちづくり施策の推進
庁内各課やその他行政機関と連携し、健康まちづくり施策の推進に取り組みます。
- ③ 健康づくりを支える多様な関係機関と連携・協働による健康まちづくり
町内外の保健医療関係者や大学、各種団体、事業者等、健康づくりを支える関係機関と連携し、自然に健康になれる健康まちづくりを推進します。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
近所づきあいをよくする者の割合	20歳以上	54.9%	67.0%	町独自・前回目標 67%
主体的に健康づくりに取り組む自主グループの数		43 グループ	53 グループ	町独自・前回目標 53 グループ
主体的に健康づくりに取り組む自主グループのうちタピオステーションの数		29 カ所	39 カ所	町独自・前回目標 39 カ所
地域活動やボランティア活動に参加している者の割合	20歳以上	28.2%	35.0%	町独自・前回目標 35%

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- 近所の人とあいさつをする。
- 地域の行事に参加する。
- タピオステーション等、健康づくりに取り組む自主活動に参加する。
- ボランティア活動に参加する。

<<地域の元気（地域でできること）>>

団体名	記述内容
泉佐野泉南医師会 （熊取班）	・医療と介護の連携会議（ひまわりネット）に積極的に中心メンバーとして関わり、多職種連携で地域とのつながりを深める。
町内大学	・くまとり元気広場（放課後子ども教室）への事業協力により、子ども同士や地域の方との交流を支援。
熊取町長生会連合会	・毎月各地区でお茶のみ懇談を実施。
熊取町社会福祉協議会	・第1金曜日の午後、図書館でふらっとルームを開き、気軽に立ち寄れる居場所づくりを実施。 ・各地区、校区ごとに地域住民のつながりを形成するため、ふれあいサロンや世代間交流を実施。
熊取町食生活改善推進協議会	・男性料理教室、シニアカフェの実施。 ・個人が各々で参加している団体等で食について話す機会を作り、実施している教室への参加の呼びかけ。
健康くまとり探検隊	・月1回の定例会と役員会。 ・他市町村とのウォーキング（道草会、メッチャポール隊）。 ・住民参加を要請するPR活動：広報くまとり、図書館・駅下にぎわい館・すまいるズ煉瓦館・すまいるズひまわりドーム等。
タピオステーション	・自宅の近くに地域で健康づくりに取り組める環境を維持。 ・地域住民同士の交流や助け合えるまちづくりの形成。 ・回覧やポスター等を使用し、地域住民への周知啓発。 ・多くの情報を発信し、参加者を増やすことで地域活動の活発化。
子育て支援関係 NPO団体	・「子育てを手伝ってほしい人」と「子育てのお手伝いができる人」を会員とし、互いに子育ての援助を行う住民同士の相互援助活動を実施。 ・子育て家庭を町内の子育てサービスにつなぐための、実施団体とのネットワークの作成。 ・活動を通して子育て家庭の孤立を防止し、身内以外で自分の子どもの成長と一緒に喜べる子育てパートナーとしての関係の育成。 ・産前産後ヘルパーを派遣し、保護者とコミュニケーションを取る中で、地域の情報を提供。 ・町の保健師と連携したサポートの実施。

<<元気を支える環境（行政ができること）>>

次のように、ライフステージ別に庁内の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
乳幼児期	②③	◇ 保健師地区担当制による関わりを継続し、保育所等と連携して、つどいの広場等への出前講座等、地域特性に応じた関わりの実施。	子育て支援課
学齢期	①	◇ 地域の高齢者の方々との交流の実施。	学校教育課 （町立小学校） （町立中学校）
	③	◇ 大阪体育大学の協力による車いす・アイマスク体験の実施。	

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
青年期 壮年期	②	◇ 健康づくり 21 推進グループの後方支援として、毎月の定例会やイベントのフォロー及び広報。	健康・いきいき 高齢課
	②	◇ 新規健康づくり 21 推進員の発掘を目的に、フレイル予防マスター講座を実施。	
	③	◇ 泉佐野市・田尻町と共同で設置した障がいのある方の日中の活動をサポートする地域活動支援センターの環境整備と利用促進。	障がい福祉課
高齢期	②③	◇ 「タピオステーション」の立ち上げ及び継続への支援を、町内大学や健康づくり 21 推進グループ等と連携しながら実施。	健康・いきいき 高齢課
	②	◇ 独居高齢者及び高齢者のみ世帯を対象とした「みまもりアンケート」を実施し、必要な支援につなげ、見守りを強化。	介護保険課
	②③	◇ 「地域ケア会議」「認知症初期集中支援チーム」「生活支援・介護予防サービス協議体」等の取組を通じた、様々な職種・地域組織との連携強化と、介護予防・生活支援ボランティアポイント制度の導入について検討。	
全年齢	②	◇ 保健師の地区担当制を行うなど、地域特性に応じた地域への関わりを持つ。	子育て支援課
	②	◇ 人口動態や疾病統計等を定期的に評価し、まちの健康状況に応じた施策を展開。	健康・いきいき 高齢課
	③	◇ 町内大学との連携事業の推進。	企画財政経営課
	③	[熊取アトムサイエンスパーク構想の推進] ◇ ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の普及啓発。 ※ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）とは、通常の生体内元素の数千倍の核反応を中性子と起こすホウ素薬剤BPA（p-boronophenylalanine）を、注射により腫瘍細胞に集積させ、そこに中性子を照射し、病巣内部に限局的な核反応を起こします。核反応により生じた重荷電粒子は、従来の放射線療法と比べ、はるかに大きな線量を腫瘍細胞のみに照射することができ、これまで治療不可能であった病巣にも著しい損傷を与えることが期待できる大きな可能性を持った治療法です。	企画財政経営課
	①②③	◇ 多種多様な自主活動やボランティア活動への場の提供。	図書館
	①③	◇ 人材バンク、スポーツリーダーバンク等のボランティア活動及び子ども見まもり隊による地域での世代間交流の場の機会提供。	生涯学習推進課
	①②	◇ コミュニティ支援団体をはじめ、各グループ・サークル等、自主活動を行う団体へ活動場所の無料提供や、減免による施設利用の促進。	

9. こころの健康

■スローガン

一人で抱え込まず、まずは打ち明けて、その悩み

■めざす姿

① 地域におけるネットワークの強化

相談が必要な方を、適切な相談先につなげるよう、関係各課・関係機関と連携を図ります。

② 自殺対策を支える人材の育成

誰もが自殺対策の視点を持ち、身近な地域で支援者となれるよう、職員をはじめ関係機関向けに、ゲートキーパー研修等を実施します。また、支援者がひとりで問題を抱え込まないよう、専門職による相談や研修等の支援を行います。

③ 住民への啓発と周知

自殺に追い込まれることは、「誰にでも起こりうる危機」であり、生きづらさを感じた時は、誰かに助けを求めることが重要であること等、自殺に対する正しい知識を普及啓発します。また、心の健康講座やSNS等により、うつや依存症等、自身や身の回りの人の心の状態に気づくきっかけや対策についての情報提供を行います。

④ 児童生徒のSOSの出し方に関する教育

児童・生徒が悩みやストレスを抱えた時に、気軽に相談できる雰囲気づくりやSOSの出し方を周知します。

■評価指標

項 目		ベースライン値	目標値	設定根拠
		令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
人口10万人当たり自殺死亡率 (過去5年間の平均)		18.9 (令和元～5年度)	13.0以下	大阪府目標 13.0以下
生きがいや充実感が 「非常にある・ある」者の 割合	20歳以上	67.3%	72.0%	町独自・前回目標 72%
【新】困ったことや悩みごと がある時「相談しない」者の割合	小6・中2	13.4%	12.0%	町独自 1割減少
	20歳以上	9.1%	8.0%	町独自 1割減少

■計画の推進

《一人ひとりの元気（一人ひとりができること）》

- 悩みは一人で抱え込まず、誰かに相談します。
- 自分にあったリラクセス法やストレス解消法を身につけます。
- ワークライフバランスを心がけます。
- 生きがいを持って生活できるよう、地域の活動や趣味活動に積極的に参加します。

《地域の元気（地域でできること）》

団体	記述内容
子育て支援関係 NPO団体	・「心の発達とその問題」の講座で、子育て講演会を兼ねて広く参加者をつのり、専門の講師の話を聞く機会を提供。 ・子育て中の保護者の悩みを傾聴する機会の実施。
町内民間保育園・認定こども園・幼稚園	・誰でも受診可能なキンダーカウンセラーによるケア。
大阪府 泉佐野保健所	・啓発週間、月間時にロビー展示とは別に、保健所HPにて関連情報を掲載する等、来所者以外にも広く啓発できるように工夫。 ・個別の相談に加えて、若年層の自殺予防として、町内関係機関等への情報提供や啓発展示等。

《元気を支える環境（行政ができること）》

次のように、ライフステージ別に庁内の取組内容を整理しました。

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
妊娠期 乳幼児期	②	◇ 保健師による子どもの保健相談、児童相談員による子ども・家庭相談を実施。 ◇ 地区担当保健師による、妊娠中から出産・子育て期にかけての切れ目ない相談支援の取組に加え、子育て相談の機会として「こんにちは赤ちゃん訪問」や「8か月児訪問」「すくすく相談」、発達・ことば・運動機能に関する専門相談等を行い、必要に応じ、こころの相談先を紹介。	子育て支援課
	①	◇ 必要時に医療機関を紹介。	
	①②	◇ 産婦健診（産後2週間、1か月頃）において、こころの健康チェック（エジンバラ産後うつ質問票）を実施。支援が必要な産婦には、医療機関等と連携し、保健師が家庭訪問等の支援を行う。	

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
	①②③	✧ 産婦健診事業等から支援が必要とされた方に対して、母子のショートステイ、デイサービス等の産後ケア事業や産前産後ヘルパー派遣事業等を実施。	子育て支援課
	③	✧ 「マタニティ&ファミリーコンサート」を開催し、妊娠中から産後の方が気軽に参加でき、子育て支援課による支援の情報を得られる機会を提供。	図書館
学齢期	②④	✧ 臨床心理士や教育相談コーディネーターを配置し、専門相談を実施。	学校教育課
	③④	✧ 相談窓口としてすこやか教育相談（大阪府）やLINE相談（大阪府）等の周知の実施。	
青年期 壮年期	②	✧ 住民や関係職員向けに「ゲートキーパー養成研修」の実施。	健康・いきいき 高齢課
	③	✧ 町ホームページにおいて、こころの相談窓口へのリンク掲載及びこころの体温計の利用啓発の実施。	
高齢期	②③	✧ 健康相談として電話や窓口で、相談対応を実施。	健康・いきいき 高齢課
	③	✧ タピオステーションでの運動の後、茶話会（タピオカフェ）を行う等、地区の交流の場の整備。	
	③	✧ 気軽に楽しく交流できるサロンや交流イベント等への参加を促すなど、地域の中でこころの健康を保つ環境づくりを進める。	
	③	✧ 健康・長寿その他関心の高いテーマの関連資料の展示・貸出。	図書館
全年齢	①②③	✧ 障がいのある方とその家族の生活上の悩みごとを対象とした相談支援。	障がい福祉課
	①②③	✧ 消費生活相談として、消費生活において困った方の相談や自主的な解決への支援を実施。必要に応じた関係部署との調整、弁護士への引き継ぎ等の適切な対応の実施。	産業振興課
	①②③	✧ 就労支援相談として、ハローワークとの連携や各種の支援セミナーの情報提供等により、個々の状況に応じた効果的な相談の実施。	
	①②③	✧ 近畿税理士会泉佐野支部への事前申込制で税の相談事業の実施。	税務課
	①②③	✧ 来庁者が専門相談先を見つける支援の実施。	総務課
	①②③	✧ 行政相談として、町の行政相談のほか近畿管区行政評価局で実施している行政相談窓口（対面のほか、電話・イ	

ライフ ステージ	めざす姿	取組内容	部署
		インターネット・郵便等による相談を実施）を町ホームページで広報・周知。	総務課
	①②③	☆ 法律相談として、大阪弁護士会に委託し、住民の権利の擁護と、人権の保障に関する相談を無料で実施。	生活福祉課
	①②③	☆ 生活困窮「はーと・ほっと相談室」において、生活全般にわたる困りごとの相談を受け、専門の支援員が個別支援プランを作成し、解決に向けた支援を実施。	生活福祉課
	③	☆ WEB上で、住民が24時間、365日利用することができるメンタルチェックシステム「こころの体温計」を運用。システム利用後は、チェック結果とともに相談窓口の案内を実施。	健康・いきいき 高齢課
	①②③	☆ 生活困窮者に対する自立支援	生活福祉課
	③	☆ 本・新聞・雑誌等をくつろいで読める「ブラウジングコーナー」等を設置し、居場所を提供。	図書館
	③	☆ スキルアップコーナーで「ハローワークの求人情報」「新聞折り込み求人案内」を収集・提供。また、各種資格取得に関する資料を提供。	

10. 計画の目標一覧

以下のように、本計画の目標値を設定します。

分野	項 目		ベースライン	目標値	設定根拠
			令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
1. 栄養・食生活	朝食をほとんど毎日食べる者の割合	小6	86.4%	100.0%	大阪府目標 朝食欠食割合 7～14歳 0% 20～30歳 15%以下
		中2	76.8%	100.0%	
		4か月児 健診保護者	65.9%	85.0%以上	
		20歳代	58.0%	85.0%以上	
		30歳代	83.2%	85.0%以上	
	【新】主食・主菜・副菜を3つ そろえた食事を1日2回以上ほ ぼ毎日食べる者の割合	小6・中2	67.8%	増やす	大阪府目標 60%以上
		20歳以上	59.6%	60.0%以上	
	【新】野菜を食べない者の割 合（1皿分以下/日）	20歳以上・朝	72.8%	65.0%	町独自 1割減少
		20歳以上・昼	53.8%	48.0%	
	【新】果物を食べない者の割 合（1つ分未満/日）	20歳以上	51.2%	45.0%	町独自 1割減少
	【新】減塩に取り組んでいる 者の割合	20歳以上	43.6%	48.0%	町独自 1割増加
	【新】尿中ナトリウム比が4未 満である者の割合	集団特定健診受診 者のうち協力者	80.7%	90.0%	町独自 1割増加
	家族と一緒に食事をする者の 割合（朝食ひとり）	小6	15.1%	12.0%	町独自・前回目標 小6：12% 中2：35%
		中2	39.4%	35.0%	
	食育に関心がある（大切と思 う）者の割合	小6・中2	82.8%	増やす	大阪府目標 75%以上
		20歳以上	68.0%	75.0%以上	
	熊取町の特産物を利用した 食事を食べる者の割合	20歳以上	79.0%	90.0%	町独自・前回目標 90%
	3つの食品群を理解してい る者の割合	小6・中2	81.4%	90.0%	町独自・前回目標 90%
	【新】栄養成分表示を参考に する者の割合	20歳以上	31.6%	35.0%	町独自 1割増加
	食品ロス問題を知っている 者の割合	20歳以上	94.0%	増やす	町独自・前回目標 90%
	【新】適正体重を維持してい る者の割合	中2女性	79.6%	増やす	大阪府目標 大阪府民 70%以上
		30歳女性	71.2%	増やす	
		40歳以上	69.5%	70.0%以上	
	【新】肥満傾向児の割合	小4男性	11.9%	10.75%	大阪府目標 男性10歳 10.75% 女性10歳 10.11%
		小4女性	6.8%	減らす	

分野	項 目		ベースライン	目標値	設定根拠
			令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
2. 身体活動・運動	子どもの運動習慣 1回30分以上週2回以上する者の割合	幼児及び小学校低学年	81.3%	増やす	町独自・前回目標 70%
		小6・中2	76.0%		
	大人の運動習慣 1回30分以上週2回以上する者の割合	20歳以上	42.1%	増やす	大阪府目標 40%
	【新】歩数を計測する者の割合	20歳以上	29.8%	33.0%	町独自 1割増加
	【新】運動をしない理由 (興味・関心がない、必要を感じない)者の割合	20歳以上	16.0%	14.0%	町独自 1割減少
3. 休養・睡眠	起床時間8時台以降である者の割合	幼児及び小学校低学年	3.5%	3.0%	町独自 1割減少
	就寝時間11時台以降である者の割合	幼児及び小学校低学年	3.1%	2.5%	町独自 1割減少
	睡眠による休養を十分にとれている者の割合	20歳以上	55.4%	70.0%	町独自・前回目標 70%
	【新】睡眠時間が十分に確保できている者の増加 (睡眠時間6～9時間)	20歳以上	62.4%	増やす	大阪府目標 60%
	主観的健康観が「とても健康・どちらかといえば健康」の者の割合	20歳以上	75.8%	83.0%	町独自・前回目標 83%
4. たばこ	喫煙をする者の割合	20歳以上・男	17.6%	15.0%	大阪府目標 男性 15.0% 女性 5.0%
		20歳以上・女	4.2%	減らす	
	妊婦で喫煙をする者の割合		2.0%	0.0%	大阪府目標 0%
	【新】望まない受動喫煙の機会のない者の割合	小6・中2	44.4%	50.0%	町独自 1割増加
	たばこへの興味が「ある・少しある」者の割合	小6・中2	8.2%	4.0%以下	町独自・前回目標 4%以下
5. アルコール	お酒への興味が「ある・少しある」者の割合	小6・中2	39.4%	35.0%	町独自・前回目標 35%
	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている者の割合	20歳以上・男	28.4%	13.0%	大阪府目標 男性 13.0% 女性 6.4%
		20歳以上・女	26.3%	6.4%	

分野	項 目		ベースライン	目標値	設定根拠
			令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
	多量飲酒をしている者の割合	20歳以上・男	9.1%	6.0%	町独自・前回目標 男性 6% 女性 2%
		20歳以上・女	2.9%	2.0%	
	妊婦で飲酒をする者の割合		0.4%	0.0%	大阪府目標0%
6. 歯・口腔の健康	3歳6か月児健診でう歯のない者の割合		90.1%	95.0%以上	大阪府目標95%以上
	【新】12歳児(中1)歯科健診でう歯のない者の割合		87.9%	95.0%以上	大阪府目標95%以上
	定期的(年1回程度)に歯科健診を受けた者の割合	20歳以上	56.2%	95.0%以上	大阪府目標95%以上
	歯みがきを1日に3回以上する者の割合	小6・中2	17.8%	35.0%	町独自・前回目標35%
	自分の歯が24本以上ある者の割合	60歳代	55.3%	95.0%以上	大阪府目標95%以上
	【新】自分の歯が20本以上ある者の割合	80歳代	37.4%	85.0%以上	大阪府目標85%以上
7. 健康チェック	特定健診受診率		37.9% (令和4年)	60.0%	第4期特定健康診査等実施計画より
	【新】特定保健指導実施率		27.5% (令和4年)	60.0%	第4期特定健康診査等実施計画より
	【新】メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群該当者割合)		20.0% (令和5年)	15.0%	第4期特定健康診査等実施計画より
	【新】未治療者の割合	高血圧受療勧奨(受療有/対象者)	50.5% (令和4年度)	53.0%	第4期特定健康診査等実施計画より
		糖尿病受療勧奨(受療有/対象者)	77.1% (令和4年度)	80.0%	第4期特定健康診査等実施計画より
		LDLコレステロール要医療者受療勧奨(受療有/対象者)	50.0% (令和4年度)	60.0%	第4期特定健康診査等実施計画より
	がん検診受診率	胃(50～69歳)	6.2% (令和4年度)	6.9%	地域保健・健康増進事業報告より 全国(R4)実績値 胃: 6.9% 大腸: 6.9% 肺: 6.0% 乳: 16.2% 子宮: 15.8%
		大腸(40～69歳)	5.1% (令和4年度)	6.9%	
		肺(40～69歳)	5.4% (令和4年度)	6.0%	
		乳(40～69歳)	16.4% (令和4年度)	増やす	
		子宮(20～69歳)	17.0% (令和4年度)	増やす	

分野	項 目		ベースライン	目標値	設定根拠
			令和6年度 (2024)	令和12年度 (2030)	
	町の がん検診精密検査 受診率	胃（40歳以上）	87.2% (令和4年度)	90.0%	第4次大阪府がん対策推進計画より 胃：90% 大腸：90% 肺：90% 乳：95% 子宮：90%
		大腸（40歳以上）	71.0% (令和4年度)	90.0%	
		肺（40歳以上）	83.8% (令和4年度)	90.0%	
		乳（40歳以上）	93.5% (令和4年度)	95.0%	
		子宮（20歳以上）	92.3% (令和4年度)	増やす	
	【新】後期高齢者医療健診受診率		22.85% (令和5年度)	26.9%	大阪府後期高齢者医療広域連合目標より
	【新】骨粗しょう症検診受診率		1.48% (令和5年度)	15.0%	大阪府目標15%
	【新】フレイルチェック実施数 集団健診（特定健診・後期高齢者医療健診）受診者に実施		1,627件 (令和5年度)	1,800件	町独自 1割増加
8. 地域とのつながり	【新】アスマイルの登録者数		1,095人 (令和5年度)	1,200人	町独自 1割増加
	【新】健診の受け方が分からない者の割合		13.4%	12.0%	町独自 1割減少
	近所づきあいをよくする者の割合	20歳以上	54.9%	67.0%	町独自・前回目標67%
	主体的に健康づくりに取り組む自主グループの数		43グループ	53グループ	町独自・前回目標53グループ
	主体的に健康づくりに取り組む自主グループのうちタピオステーションの数		29カ所	39カ所	町独自・前回目標39カ所
9. こころの健康	地域活動やボランティア活動に参加している者の割合	20歳以上	28.2%	35.0%	町独自・前回目標35%
	人口10万人当たり自殺死亡率 (過去5年間の平均)		18.9 (令和元～5年)	13.0以下	大阪府目標13.0以下
	生きがいや充実感が「非常にある・ある」者の割合	20歳以上	67.3%	72.0%	町独自・前回目標72%
	【新】困ったことや悩みごとがある時「相談しない」者の割合	小6・中2	13.4%	12.0%	町独自 1割減少
		20歳以上	9.1%	8.0%	町独自 1割減少